

(4) 重複障がい学級の取組

(1) 取組の概要

本学習グループは、小学部重複障がい学級、中学部重複障がい学級、高等部重複障がい学級から構成されます。平成25年度までのグループ研究において、生活マップや土日スケジュール表といったツールの作成と活用に取り組みました。その結果、本人を取り巻く環境について整理し、関係者間の連携を図ることができました。また、「かかわる」「きめる」「はたらく」の概念について整理し、教師間で共通理解を図ることができました。

平成26年度以降のグループ研究においては、それらのツールに年間指導計画や学習内容表等を加え、「Tスタイル」としてまとめた上で、Tスタイルに基づく授業づくりに取り組みました。そして、この取組を通して、一人一人に応じた学習内容や指導・支援方法の工夫・改善といった教育プログラムの構築を目指しました。

なお、重複障がい学級におけるキャリア教育を「児童生徒一人一人が持てる力を発揮し、人とかかわり合いながら、自分らしく生活していけるよう指導・支援する教育」とし、6年間にわたり実践を重ねてきました。

(2) 取組の内容

ア Plan (計画)

(ア) 各種計画の作成と共通理解

a 児童生徒の実態把握

重複障がい学級においては、学校生活の様子を自立活動の6区分に沿ってまとめたり、引き継ぎシートを作成したりして、児童生徒一人一人の実態把握と学習の積み重ねができるようにしました。また、生活マップや土日スケジュール表を活用することで、家庭生活や地域生活の様子についても把握できるようにしました。

b 自立活動設定シート、年間指導計画、学習内容表の作成

自立活動を実施するに当たっては、自立活動設定シートを作成し、児童生徒の様子と目標、自立活動の区分との関係を明らかにして指導内容を設定しました。また、集団の学習については、年間指導計画や学習内容表を作成し、担当者を中心に内容を検討しました。

指導目標 育てたい力	内容	学習・身体表現	音楽	鑑賞
様々な音楽活動を通して楽しさを広げたり表現したりして生活を豊かにする力を養う。 か：友達や教師とやりとりしながら活動し、一緒に活動することの楽しさを感じる。 き：楽しい経験を積み重ねて興味関心を広げたり表現を高めたりする。 は：息とり、間取り、体を動かしたりして活動に取り組み、やりがいを感じる。	4 日付 ・題材名とメインの活動のポイント ・「抱負くちろう」 ・新入生歓迎する会 ※小1～3、中、高1 ※歌唱	オープンソング 「この星に生まれて」に馴染む		♪(新しい先生の好きな曲)
5	・カラフルパルーン ※小3 (1) (2) ※身体表現	「Let it go」	※学習指導要領上の位置づけ ※音楽の4観点	
6	「みんなであつちろう」 ・楽器を持ってマーチング ※小1～3、中 (3)、高 (1～3) ※音楽		「明日があるさ」	
7	(体育館) (撮影) (振り返り)			
9	「前に合わせて踊ろう」 ・ダンス・盆踊りなどを中心に ※小1～3、中 (3)、高 (1～3) ※鑑賞、身体表現	「思後米音頭」		
10	(体育館) (撮影) (振り返り)			

グループ目標	人とかかわりながら、自分から、自分で、自分らしく取り組む児童生徒						
育てたい力	か：友達や教師とやりとりしながら、一緒に活動する楽しさを感じる。 き：自分のできることを進んだり、新しい経験を積み重ねたりする。 は：特別な働きを活かして活動に取り組み、満足感ややりがいを感じる。						
前期	学習名	単元目標	回数	主な内容	指導・教材 含まれる主な教科	育てたい力	
4	重複学級 歓迎会	・教師と一緒に、身近な人に、簡単なあいさつをする。 ・友達とかかわりをもち、きまりを守って待てる。	1	・新入生自己紹介 ・新入生クイズ ・だるまさんがころんだ	特別活動	・人とのかかわり ・集団参加	
5	運動会	・グループ競技や運動会に向けての目標を決めたり、意欲を高め、意を教師に伝えて進ぶことができる。 ・競技の内容やテーマを知り、自発的に動いて活動することで、役割を覚悟して活動することができる。	26 1 2 1 (後日は行 動のフェス)	・グループ競技練習 ・係活動	生活単元 学習	小(算数、国語工 作、体育) 中(数学、美術、保 健体育) 高(数学、国語工 作、保健体育)	自己選択・決定 はたらくよこご 役割の理解と実行
6	校外学習(イ オンモール 大牟田)	・日常生活では経験することが少ない施設での買い物学習等を行うこと、公共施設の利用やマナーを守ることで、社会生活の経験を広げる。 ・友達や教師と生活と一緒にすること、かかわり合いを認め、学校生活の楽しい思い出をつくる。	7 (当日)	・公共施設の利用 ・買い物学習 【事前】 ・事前から買い物リスト ・ミッションカードの作成 【当日】 ・買い物リスト、お礼状 ・お礼状作成	特別活動	・買い物・やりがい ・集団参加 ・意欲の強い	
7	水遊び活動 (プール)	・水遊び活動を通して、水遊びの楽しさを感じたり、身体を動かしたりする。 ・プールで水遊びを行い、友達を驚かせて活動する。 ・水遊び活動を通して、プールや温水プールに入ったり、水や湯水、泳ぎを覚える機会に接したりする。 ・また、友達の様子を見たり、水遊びの中で友達とかかわりたりすることで、水遊びの楽しさを感じる。	10 1 1 8	・水の感触を楽しんだり、水の中で身体を動かしたりする学習	自立活動	・目標に向かって ・身近なものへの関心 ・はたらくよこご	
9	校外学習 (石炭産 科学校)	・公共施設の利用を通して、公共の場におけるルールやマナーを学んだり、社会生活に関する経験を広げたりする。 ・展示物見学や施設利用を通して、自然やエネルギーに関する事項について積極的に学ぶ。 ・友達や教師と一緒に活動し、かかわりをもつとともに、学校生活の楽しい思い出をつくる。	6 (当日) 1 5 (台風の影響で、事前学習が中止)	・公共施設の利用 ・展示物の見学、体験活動	特別活動	・買い物・やりがい ・集団参加 ・様々な情報への関心 ・身近なもの	

c 指導略案の作成と共通理解

個別の学習（自立活動（個別）、各教科）については、必要に応じて指導略案を作成し、指導内容や方法を見直しました。集団の学習（音楽、自立活動（集団）、生活単元学習等）においては、授業ごとに担当者が指導略案を作成し、教師間で共通理解を図った上で授業に臨みました。その際、集団の中で自分の力をいかに発揮するか、あるいはその力をいかに育てるかという視点を大切に、活動内容や指導・支援方法を検討しました。

イ D○(実践)

(ア) 個別の学習

a 自立活動（個別）

学習指導要領における自立活動の内容を踏まえ、「育てたい力」の視点を大切にしながら、個別の指導計画に基づいて学習を進めました。

目標（育てたい力）	学習内容（自立活動の内容）	児童生徒の様子
姿勢を整えながら教材を操作できる。（「きめる」「はたらく」）	長短パイプ抜きやスライドスイッチの操作に取り組む。（「身体の動き」「環境の把握」）	椅子座位での学習では、地面に足をつけて踏ん張り、背筋を伸ばしてゆっくりとパイプを抜くことができた。
教師と一緒にいろいろな文字を入力することができる。（「きめる」「はたらく」）	スイッチワープロを操作して、身近な人や物の名前を教師と一緒に入力する。（「身体の動き」「コミュニケーション」）	手や腕を動かしてスイッチを押そうとする様子が見られた。単語や文字を入力できると、笑顔になったり、手足の動きが大きくなったりした。

(イ) 集団の学習

a 自立活動（集団）

自立活動の区分のうち「人間関係の形成」や「コミュニケーション」等、人とのかわりに重点を置き、児童生徒の様子と目標から、グループを編成して実施しました。

目標（育てたい力）	学習内容（自立活動の内容）	児童生徒の様子
得意な動きを活かしながら、友達や教師と一緒にゲームを楽しむことができる。（「かかわる」「はたらく」）	友達とペアになって、たすきをつなぐゲームを行う。（「人間関係の形成」「コミュニケーション」）	ペアの友達とたすきの両端を持ち、ペースを合わせて前へ進むことができた。声を出したり、手を振ったりして友達の応援をすることもできた。
友達を意識したり、かかわったりしながら、様々な活動に取り組むことができる。（「かかわる」「はたらく」）	音楽に合わせて、仰臥位でのストレッチに友達と一緒に取り組む。（「人間関係の形成」「身体の動き」）	クラス以外の友達が横に来るとそちらを見たり、友達の手が触れると自分の手足を友達に近づけたりする様子が見られた。

b 音楽

「鑑賞」「身体表現」「器楽」「歌唱」の4つの観点を考慮しながら計画・実施しました。

また、異年齢集団の良さを生かし、互いにかかわり合いながら活動を展開するとともに、集団における授業でも個別の目標や手立てを大切にしました。

目標（育てたい力）	学習内容（音楽の観点）	児童生徒の様子
曲やリズムに合わせ、友達と協力しながら体を動かすことができる。（「かかわる」「はたらく」）	友達や教師と一緒にカラフルバルーンを動かす。（「身体表現」）	友達やバルーンの動きを見て楽しんでいた。自分の得意な動きを活かし、友達と協力してバルーンを動かすこともできた。
合奏に取り組む中で、自分や友達の良さを知り、認め合う。（「かかわる」「きめる」）	互いの発表の様子を見て、感想を伝え合う。（「器楽」「鑑賞」）	友達や教師から良い点を伝えてもらうことで意欲が湧き、喜びを表情で表す児童生徒がいた。

ウ Check (評価)

(ア) 児童生徒の評価

a 個人目標の設定と評価

各学習においては個人目標を設定し、その目標に対して児童生徒の様子がどうだったかという視点で評価を行いました。特に、集団の学習においては、個人目標と評価を一覧にし、複数の教師の目で児童生徒の様子を捉えるようにしました。なお、評価の記入は、「かかわる」「きめる」「はたらく」の観点ごとに行い、キャリア発達の視点から児童生徒の変容を捉えられるようにしました。

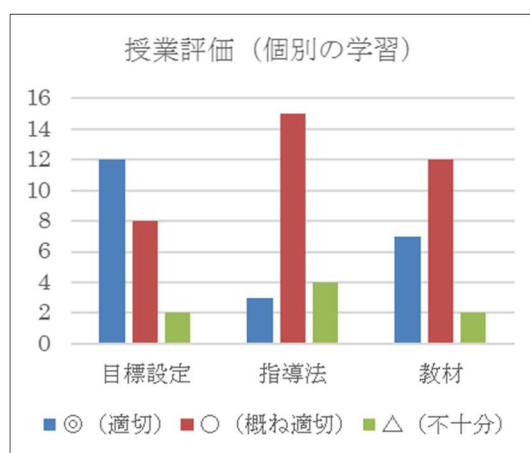
b 学習記録表の活用

学習記録表を用意し、児童生徒の日々の様子を記録するようにしました。記入は任意ですが、特に自立活動（個別）においては、児童生徒の変容を知るのに役立ちました。

(イ) 授業の評価

a 指導略案の回覧、放課後ミーティング

集団の学習においては、授業後に指導略案を回覧し、児童生徒の様子とともに授業内容や指導方法等についても、気付きやアイデアを直接記入するようにしました。また、必要に応じて授業当日の放課後に10分間程度のミーティングを行い、翌日からの授業改善につなげました。なお、回覧後の指導略案は、指導形態ごとにファイリングし、必要に応じて適宜閲覧できるようにしました。



授業評価の一例

b 専門性向上研修（スーパーティーチャー研修）

平成27年度以降、年間2～4回スーパーティーチャー（指導教諭）を招聘し、個別の学習に関する研修を行っている。指導略案と話題にしたい事項を事前に送付し、当日の授業参観後、各授業に対して指導・助言をいただいた。

c グループ内事例検討会

個別の学習や児童生徒とのかかわり方について、学級を超えて検討する機会を設け、指導力向上に努めました。なお、上記スーパーティーチャー研修と併せると、重複障がい学級に所属する教師全員が、年間1回以上の事例検討会を行ったこととなります。

エ Action (改善)

(ア) 日々の授業改善

各学級における日々の情報交換や学習の記録、指導略案の回覧、放課後10分間ミーティング等をとおして、各授業の反省と改善に努めている。

指導形態	授業改善例
自立活動 (個別)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら上体を起こすことができるよう、教材の長さや大きさ、提示位置を工夫し、目と手を使いながら姿勢を保持できるようにした。 ・自分でスイッチを操作できるよう、本人の様子に合わせて仰臥位または側臥位、右手または左手を選び、操作しやすい位置にスイッチを提示するようにした。
自立活動 (集団)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの友達をより意識しながらゲームに取り組めるよう、勝敗を競うルールから、協力して道具を運ぶルールに変更した。 ・いろいろな友達とかかわりがもてるよう、座席の配置を工夫し、互いに触れたり、会話したりする場面を設けた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて体を動かせるよう、全員で掛け声をしたり、決まったフレーズを言ったりしてタイミングを合わせるようにした。 ・自ら意欲的に楽器を演奏できるよう、衣装を工夫したり、操作しやすい補助具を用意したりした。

(イ) 重複障がい学級における「育てたい力」の再確認

日々、育てたい力を意識した学習を展開しているが、重複障がい学級に在籍する児童生徒については、より丁寧な様子観察と目標設定が必要です。そこで、グループ研究会において、「育てたい力」一覧表を確認し直すことで、目の前の児童生徒の様子と目指す姿がより明確になりました。

重度・重複障がいある児童生徒にとって、その人らしい生き方を見つけ、その人らしい生き方ができるように支援する教育がキャリア教育と言えます。児童生徒の少し先の将来を見据えて、今、どのような力が必要かを考える視点を取り入れることがキャリア発達を促す視点と考えることができます。

次頁に、補足資料として、『重度・重複障がいある児童生徒のキャリア発達における「育てたい力」一覧表(試案)』を提案します。

(3) まとめと今後の方向性

本年度までのグループ研究を通して、各教師は児童生徒一人一人のキャリア発達や保護者をはじめとする関係者との連携について、より一層意識するようになりました。また、指導略案を活用した事前および事後の検討を通して、教師間で共通理解を図った上で実践することができました。なお、児童生徒一人一人の変容については、個別の指導計画や単元・題材ごとの個別目標に対してどのような姿が見られたかを丁寧に見取ることを積み重ねました。その際、複数の教師の目で見ることや「かかわる」「きめる」「はたらく」の視点を大切にしました。

今後は、これまで重複障がい学級として大切にしてきた視点や取組を継続しつつ、児童生徒一人一人に応じた学習や指導・支援について追求していきます。その中で、より効果的なTスタイルの活用と児童生徒一人一人の変容の把握についても、引き続き工夫を重ねていきます。